

三田は自然が豊か、鳥がいっぱい！

赤保正文・佐竹千代子・岡田照代・井上富雄・垂井ふさ子・瓜生恒子・中川貴美子・
西村節子・能勢公紀・藤原玉規・鳥越俊彦・鳥越悠紀子・木村公之・伊東吉夫・大西則和・
清田けい子・久保和恵・上総栄一・栗生 晃・橋本泰和・林 幸子・石倉則雄
(NPO法人人と自然の会・かわせみの会)

はじめに

『かわせみの会』は平成21年1月に発足しました。目的は、(1)三田市内で野鳥観察を行い、野鳥を通して環境の変化等を考え、(2)野鳥観察会を実施することにより活動の成果を発信していき、広く一般市民に自然に触れる楽しさを知ってもらうとともに三田周辺の自然の豊かさと生物多様性を考えてもらうことです。

調査方法

県立有馬富士公園(三田市福島1091-2)において、毎月1回第3木曜日の朝9時から12時まで観察会を行っています。福島大池を中心に遊歩道を歩き、観察された鳥を記録していきます。できるだけ多くの鳥を記録できるようルートは柔軟に変更することにしました。平成21年1月の1回目に有馬富士公園で、同年2月の2回目に深田公園で野鳥観察を実施したところ、鳥の数も多く自然も豊かということで、3回目からは有馬富士公園を定例観察地に決めました。健康面を考慮して真夏の8月は観察を実施していません。平成22年7月は雨で中止となり、平成21年1月から平成22年12月までの有馬富士公園での定例観察は20回になりました。

結果

『かわせみの会』の定例観察会の参加者は毎回10名ほどです。平均年齢は団塊の世代を越えているでしょうか。野鳥の見分け方は姿と声でしていますが、姿が確認できれば双眼鏡等で鳥の特徴をつかみ見分けられますが、声での聞き取りは高齢の方が多く大変です。特に夏は木々の葉っぱが覆い茂っているため、声での聞き取りに頼ることになります。まだ初心者の域を出ない私達ですので、夏場の野鳥観察では声で見分けが出来ず、数多くの見逃しがあります。それでも有馬富士公園で79種の鳥が確認できました。

2年間の観察をまとめたデータを見ると20回すべて観察できた鳥はホオジロだけでした。どこにでもいるヒヨドリや今問題になっているカワウも確認できない月があります。カラ類やメジロ・ウグイス・エナガ等はよく観察されます。有馬富士は虫類が多く、木の実も多いということでしょう。コゲラは19回観察できました。冬鳥のヒドリガモが5月に確認できなかったのに、6月につがいで確認されました。しかしその後はどうなったのでしょうか。セキレイ類は平成21年6月と同22年5月の2回はまったく姿を見せませんでした。最近よくスズメを見なくなったと言いますが、有馬富士公園では7回しか確認できていません。

まとめ

鳥は貴重な環境データの提供者です。私たちは絶滅したコウノトリ・トキのことを忘れてはいけません。「なぜマスコミがコウノトリやトキのことをこんなに騒ぐのでしょうか」。それは私たちが鳥たちへの潜在的な関心が高いからにほかなりません。一度絶滅した野鳥を復帰させるには大変な労力と膨大な経費がかかります。有馬富士公園の野鳥の観察を通し、野鳥の特徴を知り、野鳥の生態を学びながら、野鳥を通して感じる地元三田の豊かな自然の魅力と身近な自然の大切さを広く一般市民にアピールしていき、今後は野鳥観察って面白いなぁと伝

わるような市民観察会を年1回は実施したいと思っています。最後に、三田からも地球の環境の変化、特に温暖化が野鳥や他の生物たちにどんな影響を与えているのか注視し発信していきたいと考えています。



写真1

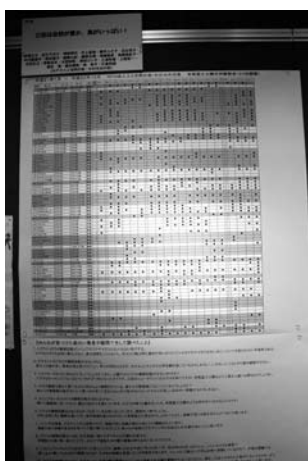


写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

写真1：発表の準備風景

写真2～5：ポスター・展示作品

写真6：発表会の様子